

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「E X E - i 先進国株式ファンド」は、2021年5月12日に第8期決算を行いました。

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、先進国（日本を除く）の株式へ実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

E X E - i 先進国株式 ファンド

追加型投信／海外／株式

交付運用報告書

第8期（決算日2021年5月12日）

作成対象期間（2020年5月13日～2021年5月12日）

第8期末（2021年5月12日）

基準価額	24,308円
純資産総額	14,116百万円
第8期	
騰落率	51.9%
分配金（税込み）合計	0円

（注1）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

（注3）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記SBIアセットマネジメントのURLにアクセス
⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒「目
論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全
体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、
レポート等をご覧いただけます。

SBIアセットマネジメント

URL:<http://www.sbiasset.co.jp/>

E X E - i 専用Webサイト

URL:<http://www.sbiasset.co.jp/EXE-i/>

E X E - i Facebookページ

URL:<https://www.facebook.com/sbiasset/exei/>

運用経過

基準価額等の推移

(2020年5月13日～2021年5月12日)



期 首：16,001円

期 末：24,308円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率： 51.9%

(注1) 参考指標はFTSE Kaigai (カイガイ)・インデックス (米ドルベース) を委託会社で円換算しています。詳細はP14をご参照ください。

(注2) 参考指標は、2020年5月12日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・各国の行動制限等による新型コロナウイルス感染拡大の抑制が奏功したこと。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に対抗した各国の大規模な金融緩和策、財政刺激策。
- ・米大統領選でバイデン氏が勝利し米政局の不透明感が払拭されたこと。
- ・2020年12月ごろからの、新型コロナウイルス接種開始を受けた新型コロナウイルス大流行の収束と経済活動正常化への期待。

下落要因

- ・2020年9～10月ごろの欧米を中心とした新型コロナウイルス感染再拡大。
- ・2020年9～10月ごろの米大統領選を巡る不透明感。

1万口当たりの費用明細

(2020年5月13日～2021年5月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 50	% 0.253	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(22)	(0.110)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(22)	(0.110)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(7)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.011	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(2)	(0.011)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.002	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.002)	
(d) そ の 他 費 用	3	0.013	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.011)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	55	0.279	
期中の平均基準価額は、19,865円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

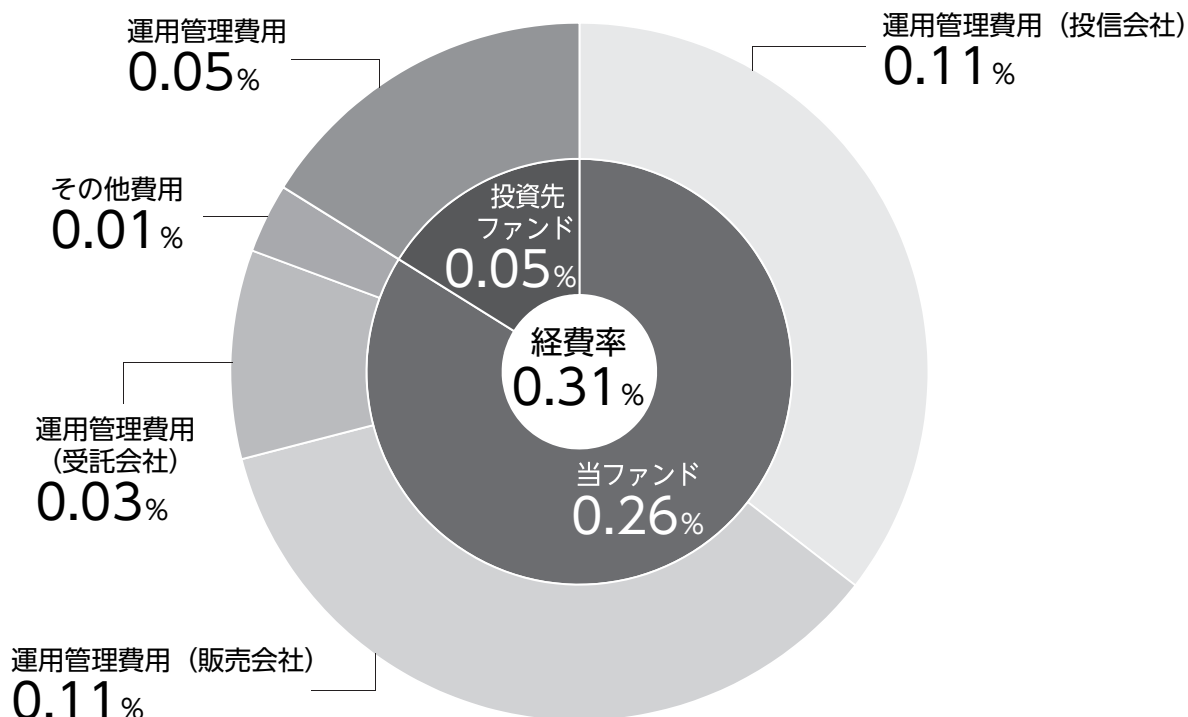
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は0.31%です。



経費率 (①+②)	0.31%
①当ファンドの費用の比率	0.26%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.05%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理費用の比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

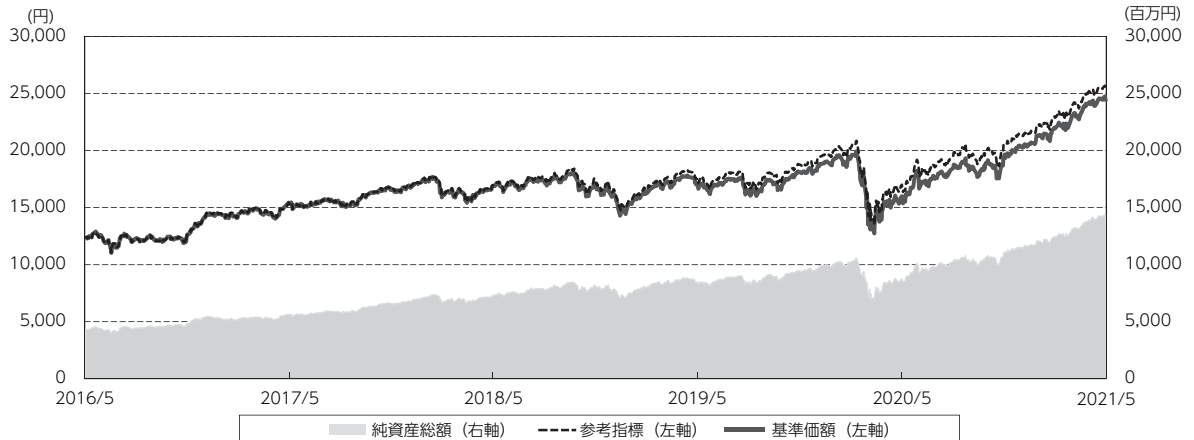
(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年5月12日～2021年5月12日)



(注) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2016年5月12日 期首	2017年5月12日 決算日	2018年5月14日 決算日	2019年5月13日 決算日	2020年5月12日 決算日	2021年5月12日 決算日
基準価額 (円)	12,381	15,361	16,899	17,112	16,001	24,308
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	24.1	10.0	1.3	△ 6.5	51.9
参考指標騰落率 (%)	—	24.0	10.7	3.2	△ 3.1	48.5
純資産総額 (百万円)	4,312	5,636	7,316	8,480	8,772	14,116

(注1) 参考指標はFTSE Kaigai (カイガイ) ・インデックス (米ドルベース) を委託会社で円換算しています。詳細はP14をご参照ください。

(注2) 参考指標は、2016年5月12日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注3) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注4) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

投資環境

(2020年5月13日～2021年5月12日)

<先進国株式市場>

期首は、3月までの新型コロナウイルス大流行による経済活動停止への懸念による大暴落からの株価回復を受け回復基調が続きました。その後も、各国の行動制限等による新型コロナウイルス感染拡大の抑制が奏功したこと、新型コロナウイルス感染拡大に対抗した各国の大規模な金融緩和策、財政刺激策が有効な対策として評価されたことなどから、世界的に堅調に推移しました。その後、昨年9～10月ごろの欧米を中心とした新型コロナウイルス感染再拡大、米大統領選を巡る不透明感などから株価は軟調となりました。しかしながら、米大統領選でバイデン氏が勝利し米政局の不透明感が払拭されたこと、昨年12月ごろからのワクチン接種開始を受けた新型コロナウイルス大流行への収束と経済活動正常化への期待により米国を中心として再び上昇基調となりました。しかしながら、年初来、ワクチン接種の普及や大型経済対策による先々の景気回復を織り込むかたちで米長期金利が上昇しはじめ、セクターや個別銘柄の物色動向に変化が見られましたが、先進国株式市場全体としては回復傾向を維持しています。その後も、米国などワクチン接種が急速に進む国々を中心に経済指標は改善傾向にあります。米国ではFRB（連邦準備制度理事会）が、金融緩和策の縮小を早期に実施するのではないかと観測も見られています。

以上、コロナ禍にあって、基調として景気回復への期待は維持され先進国の株式は全体として当期は上昇しました。

また、この間、金融緩和策、財政刺激策の規模の違い、ワクチン接種の普及速度の違いや経済回復予想の違いにより米国と欧州の市場の回復に顕著な格差が見られました。米国市場はいち早く新型コロナウイルス大流行前の株価水準を回復し主要指標が史上最高値を更新しました。一方、欧州株式市場はコロナ禍による被害が大きかったことや経済対策の規模が米国に比べ小さかったことなどから回復が遅れております。

さらに、セクターの物色動向も大きく変化しました。昨年はコロナ禍の恩恵を受けるオンライン小売や悪影響を受けにくいIT、超低金利によりバリュエーション評価が有利となったグロース株が買われました。しかしながら、今年に入って超低金利状態が修正される状況となると、グロース株が売られる一方、景気循環株などバリュー株が買われる傾向が強まっております。今後の景気回復による需要増加への期待から素材株、エネルギー株が、金利上昇への期待から銀行株が買われております。

<外国為替市場>

ドル／円は、期首から2020年いっぱい米国の積極的な金融緩和と超低金利状態の継続を受けて、米ドルからそれ以外の主要国通貨への資金流出傾向が続いたことなどから、緩やかな米ドル安円高傾向が続きました（投信協会レートで期初の107.52円から2020年末103.50円へ）。ユーロは新型コロナウイルス感染拡大によるいわゆるコロナショックから、期首頃までユーロ安円高が進んでいましたが、欧州復興基金の合意などにより欧州景気正常化への期待が強まったことから、ユーロ高米ドル安、ユーロ高円安傾向となりました。その他の先進国通貨（英国ポンド、豪ドル）などもコロナショックから立ち直るなか、米ドルに対し強含み、対円でも強含み傾向となりました。先進国主要通貨が米ドルに対し強含む傾向は、2020年10月から11月の欧米の新型コロナウイルス感染再拡大時に一時的に中断しましたが、それ以外の時期は当期は継続して見られました。

2021年に入り、米国をはじめとしたワクチン接種普及と有効性の確認により新型コロナウイルス大流行の収束が視野に入ると、米国の長期債利回りが上昇し、上昇期は1月から3月まで続きました（3月

には米10年国債利回りは1.7%台半ば)。その間、米国金利の上昇を受け、米ドル円相場は金利差の拡大とともに米ドル安円高傾向となり、4月初には一時110台を付けました。3月末にかけて、ワクチン接種普及によっても、コロナ禍による経済的打撃からの正常化は長期化するとの見方、FRBの金融緩和も長期化するとの見方が強まり、金利上昇は行き過ぎとの見方から米国金利は下落しました。その後は、4月に入り、米国をはじめインフレ指標の上昇により金利上昇見込みが再び強まり、金利の上昇見込みと低金利長期化の見方が拮抗するなか、期末にかけてレンジ(米国債利回りは1.5%~1.7%で推移)での横ばい推移となりました。このような状況下、米ドル円は108円前後から109円台でのレンジでの推移となり108.80円で当期を終えました。

米ドル以外の主要通貨については、米国がゼロ金利政策や過去に例を見ない積極的な金融緩和策を継続するなか、対米ドルで当期を通して強含みとなり、対円でも強含み傾向が持続しました。ユーロは132円台、英ポンドは153円台、豪ドルは85円台で期末を迎えました(期初は、ユーロは116円台、英ポンドは132円台、豪ドルは69円台)。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年5月13日~2021年5月12日)

モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言に基づいた基本投資割合に従い、海外のETF(上場投資信託)への投資を通じて、先進国(日本を除く)の株式へ実質的に投資を行いました。投資比率の合計は95%以上の高位を保ちました。

なお、2021年2月より当ファンドの投資対象ファンドを以下のとおり変更いたしました。

(変更前)

・シュワブU.S. ブロードマーケットETF

(変更後)

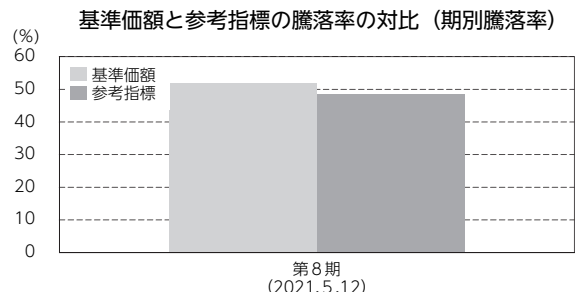
・バンガード S&P 500 ETF

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年5月13日~2021年5月12日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

右記のグラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。



(注) 参考指標はFTSE Kaigai (カイガイ)・インデックス(円換算ベース)を使用しています。
詳細はP14をご参照ください。

分配金

(2020年5月13日～2021年5月12日)

当期は基準価額等を勘案した結果、収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第8期
	2020年5月13日～ 2021年5月12日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	14,307

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、先進国（日本を除く）の株式へ実質的に投資し、先進国（日本を除く）の株式市場の値動きと同等の投資成果をめざします。当ファンドの運用にあたっては、モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言を受け、原則として年1回基本投資割合の見直しを行います。

お知らせ

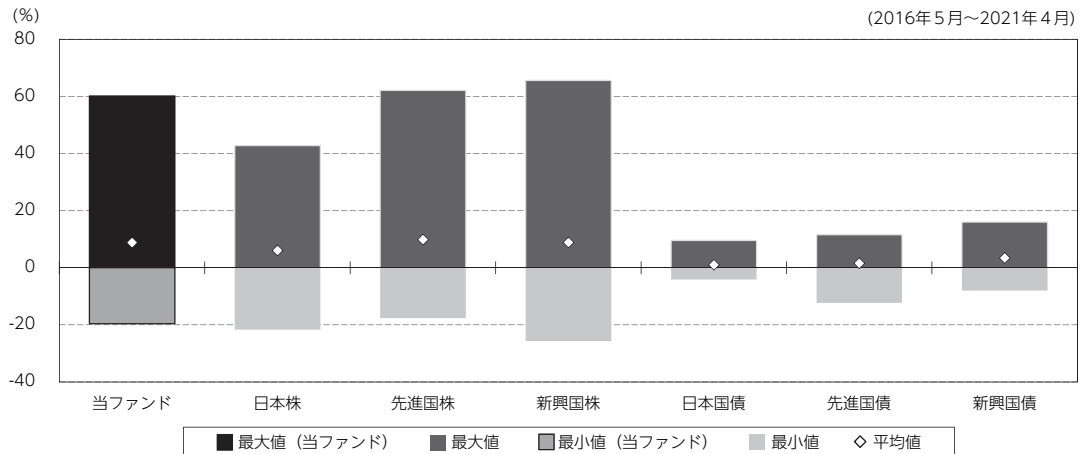
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式
信 託 期 間	無期限（2013年5月13日設定）
運 用 方 針	・ 主として先進国（日本を除く）の株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。 ・ 参考指標は、FTSE Kaigai（カイガイ）・インデックス（円換算ベース）とします。（2021年5月12日現在） ・ 市場の変動により、投資対象ファンドの組入比率が基本投資割合から乖離した場合は、原則として3カ月に1回、基本投資割合へ戻す調整を行います。 ・ 基本投資割合の見直しについては、投資対象ファンドの経費率、パフォーマンス、参考指標との連動性、流動性等を考慮して、原則として1年に1回行います。 ・ 当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行い、実質的な運用は投資信託証券への投資を通じて行います。 ・ 当ファンドの運用にあたっては、「モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社」の投資助言を受けます。
主 要 投 資 対 象	主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、先進国（日本を除く）の株式へ実質的に投資します。
運 用 方 法	主として先進国（日本を除く）の株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。
分 配 方 針	毎決算時（年1回毎年5月12日。休業日の場合は翌営業日とします。）に、分配方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	60.2	42.8	62.2	65.6	9.5	11.6	16.0
最小値	△ 19.6	△ 21.7	△ 17.6	△ 25.7	△ 4.1	△ 12.3	△ 8.0
平均値	8.8	6.1	9.9	8.9	1.0	1.6	3.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2016年5月から2021年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、P14の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年5月12日現在)

○組入上位ファンド

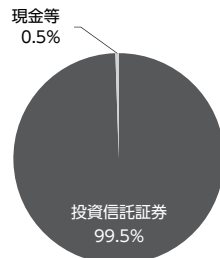
銘 柄 名	第8期末
	%
バンガード・S&P500 ETF	69.3
バンガード・FTSE・ヨーロッパ ETF	25.3
バンガード FTSE ディベロップド・アジア・パシフィック (除く日本) UCITS ETF	4.8
組入銘柄数	3 銘柄

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

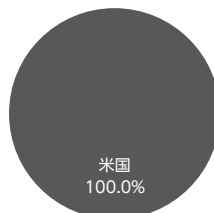
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につぎましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

(注3) 2021年2月より投資対象ファンドを変更しています。

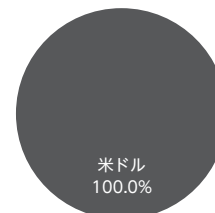
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

(注3) 国別配分は発行国を表示しております。

(注4) 通貨別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

純資産等

項 目	第8期末
	2021年5月12日
純 資 産 総 額	14,116,008,581円
受 益 権 総 口 数	5,807,186,484口
1万口当たり基準価額	24,308円

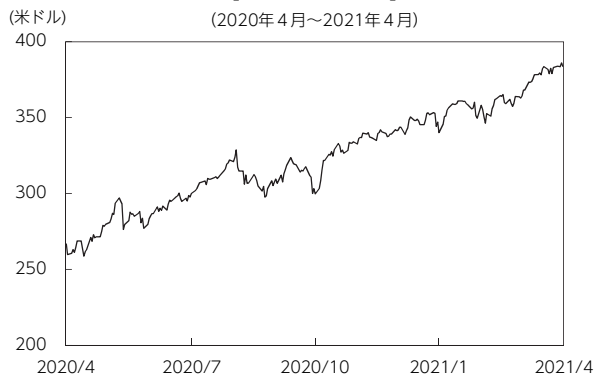
(注) 期中における追加設定元本額は1,420,223,065円、同解約元本額は1,095,808,464円です。

組入上位ファンドの概要

バンガード・S&P500 ETF

【基準価額の推移】

(2020年4月～2021年4月)



【組入上位10銘柄】

(2021年4月末現在)

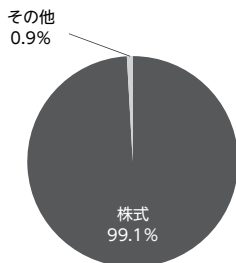
	銘柄名	比率
		%
1	Apple Inc.	5.8
2	Microsoft Corp.	5.3
3	Amazon.com Inc.	4.2
4	Facebook Inc. Class A	2.2
5	Alphabet Inc. Class A	2.0
6	Alphabet Inc. Class C	1.9
7	Tesla Inc.	1.5
8	Berkshire Hathaway Inc. Class B	1.5
9	JPMorgan Chase & Co.	1.3
10	Johnson & Johnson	1.2
組入銘柄数		507銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

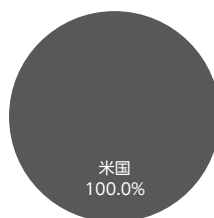
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

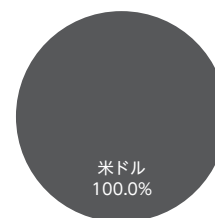
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2021年4月30日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

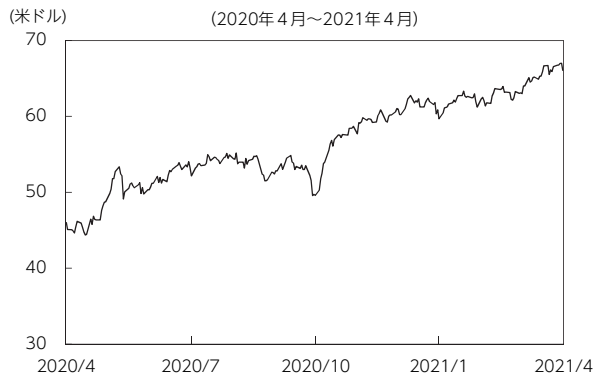
(注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注4) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

バンガード・FTSE・ヨーロッパ ETF

【基準価額の推移】



【組入上位10銘柄】

(2021年4月末現在)

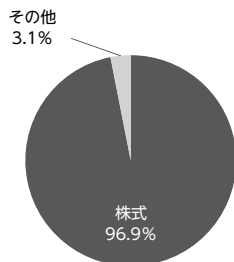
	銘柄名	比率
1	Nestle SA	2.7%
2	ASML Holding NV	2.1%
3	Roche Holding AG	1.8%
4	LVMH Moet Hennessy Louis Vuitton SE	1.5%
5	Novartis AG	1.4%
6	SAP SE	1.3%
7	AstraZeneca plc	1.1%
8	HSBC Holdings plc	1.0%
9	Siemens AG	1.0%
10	Novo Nordisk A/S Class B	1.0%
組入銘柄数		1,322銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

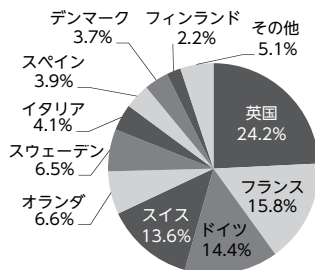
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

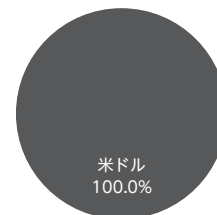
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2021年4月30日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

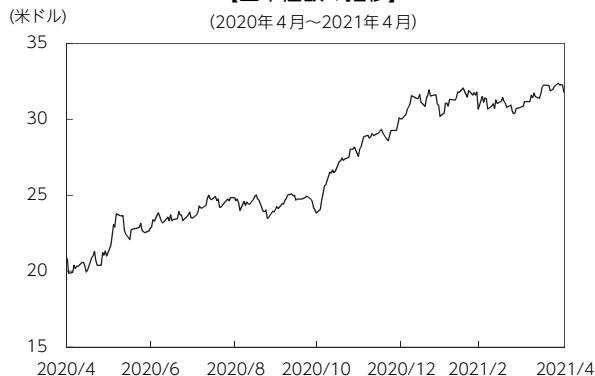
(注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注4) 国別配分は投資国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

バンガード FTSE ディベロッップド・アジア・パシフィック（除く日本）UCITS ETF

【基準価額の推移】



【組入上位10銘柄】

(2021年4月末現在)

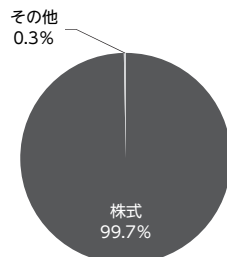
	銘柄名	比率
1	Samsung Electronics Co. Ltd.	10.1%
2	AIA Group Ltd.	4.5%
3	Commonwealth Bank of Australia	3.6%
4	BHP Group Ltd.	3.2%
5	CSL Ltd.	2.8%
6	Hong Kong Exchanges & Clearing Ltd.	2.3%
7	Westpac Banking Corp.	2.1%
8	National Australia Bank Ltd.	2.0%
9	Australia & New Zealand Banking Group Ltd.	1.8%
10	SK Hynix Inc.	1.7%
組入銘柄数		399銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

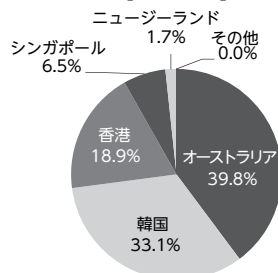
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

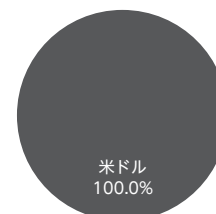
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2021年4月30日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分は有価証券の合計に対する比率です。

(注4) 国別配分は投資国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

＜当ファンドの参考指標について＞

参考指標は2015年1月まではMSCI KOKUSAI（コクサイ）・インデックス（米ドルベース）を、2015年2月からはFTSE Kaigai（カイガイ）・インデックス（米ドルベース）を委託会社で円換算しています。

○FTSE Kaigai（カイガイ）・インデックス

FTSE Kaigai（カイガイ）・インデックスとは、FTSE社が開発した指数で、日本を除く世界の主要国の株式市場全体の動きを表す指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はFTSE社に帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

〈各指数の概要〉

日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

EXE-i シリーズ専用サイトのご案内

投資者の皆様に向けて、様々なコンテンツをご用意しています

エグゼアイ

検索

「エグゼアイ」で検索いただくと専用サイトへアクセスできます
(「EXE-i」での検索でも可能です)



SBI Asset Management

ETFとETFを掛け合わせてEXE(エグゼ)、ETFのパフォーマンスを左右する「インデックス」の頭文字からi(アイ)、これら二つを合わせてEXE-i(エグゼアイ)と命名しました。(運用開始日2013年5月13日)

EXE-iシリーズとは



EXE-i EXE-iの特徴 商品概要 マーケット情報 知っ得? 納っ得!

ファンド情報

ファンド名	基準価額 (前日比)	純資産	ファンド情報
EXE-i EXE-i 先進国株式ファンド	24,948円 (+213円)	14,692百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i 新興国株式ファンド	15,795円 (+160円)	13,612百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i グローバル/小中大型株式ファンド	22,621円 (+332円)	10,666百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i 先進国債券ファンド	12,548円 (+74円)	1,365百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i グローバル/REITファンド	15,235円 (+107円)	3,598百万円	ファンドの特徴

お知らせ

2017/10/06

EXE-i (エグゼアイ) シリーズ 紹介動画

EXE-i についてのお問い合わせ先



日々の基準価額や純資産総額、及びファンドの詳細ページへのリンクを掲載

月次マーケットレポート

当ファンドの助言会社でもあるモーニングスター社のアナリストによるマーケットレポートを毎月更新

国内/海外マーケットレポート

投資信託の詳細会社、モーニングスター株式会社のアナリストによる各月のマーケットレポートです。

基準日：2021年4月30日

2021年4月のレポート

国内株式 新型コロナウイルス新規感染者増加に伴う経済正常化への先行き不透明感などにより下落

2021年4月の国内株式市場では、日経平均株価が前月末比▲1.25%、TOPIX(東証株価指数)が同▲2.85%と、いずれも下落した。前半は、空選株や観光関連株などのコロナ禍からの回復を見越して買われた銘柄と転落が目立つ株式が売られたことや、13日には大阪府での新規感染者が初めて1000人を超えるなど経済正常化への先行き不透明感が増したことにより、下落する局面もあった。一方で、日経短絡で企業業績の悪化に反応がみられたことや、強い外出制限が課されたコロナ禍の下でも伸びた半導体関連や電子部品などの成長株が再評価され買われたことなどにより、日経平均株価は上昇した。後半は、国内で東京部や大阪府などで3度目の緊急事態宣言が発令され、景気が下押しされる懸念により、急落する局面が見られた。個人投資家の押し目買いや決算発表技術に買いが入り下げ幅を縮小させたものの、利益確定売りや大型連休中のイベントリスクを懸念した持ち高調整売りとにより下落した。

※上記内容は2021年5月時点

インデックスファンドによるしく

漫画「ブラックジャックによるしく」のイラストを用いてEXE-iについて解説した漫画コンテンツ



インデックスファンドに
よろしく5

「ブラックジャックによるしく」佐藤光典
<漫画> web: <http://manganweb.com/>

インデックスファンドによるしく※

漫画「ブラックジャックによるしく」のイラストを用いて、EXE-i (エグゼアイ) について解説しています。

- 第1話 3分でおぼろげなEXE-i (エグゼアイ)
- 第2話 EXE-i (エグゼアイ) と日本橋5A
- 第3話 EXE-i (エグゼアイ) とNISA (ニーサ)
- 第4話 今のための投資、将来のための投資
- 第5話 EXE-i (エグゼアイ) 投資戦略
- 第6話 「低コスト」投資の魅力